

◎教育長（松井毅君）

来年度に全面実施される小学校のプログラミング教育を実施するに当たり、その認識及び期待効果はという御質問についてまずお答えをいたします。

コンピューターは、人が与える命令すなわちプログラムによって動き、その命令を与えることがプログラミングでございます。プログラミングを学ぶことは、今ほどもお話がありましたように、コンピューターを魔法の箱としてではなく、より主体的に活用する、そういうことにつながります。

市教育委員会といたしましても、小学校におけるプログラミング教育は、I T機器やA Iの発達が見込まれるこれからの社会を生き抜く上で大変重要であると捉えております。

また、期待する効果といたしましては、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身につけるため学習活動を計画的に実施することにより、コンピューター等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むことができると考えております。

次に、必修化されるプログラミング教育はどのような教科で学習するのか、またどのような教育カリキュラムに取り組むかという御質問についてお答えをいたします。

本市といたしましては、主として算数、社会、音楽等の各教科等の内容を指導する中でプログラミングを取り入れる授業を考えております。文部科学省小学校プログラミング教育の手引きや県の教育委員会から出されております冊子等を参考として取り組んでまいりたいと思っております。

次に、プログラミング教育の準備など取り組みへの進捗状況、来年度の実施に向け子供たちに対し円滑に受け入れられる体制は整っているか、必修化前に試験的な実施を行うかという御質問についてお答えをいたします。

まず、進捗状況についてでございますけれども、昨年度より小学校において現在のパソコン環境で使用可能なソフトを使用して可能な単元において授業を行うなど部分的な実施を行っております。金沢市とか加賀市みたいに新聞に出てはおりませんけれども、現実にはやっております。

また、多くの使用が見込まれるソフトを学校のパソコンに順次インストールしております。また、パソコン教室で導入している各ソフトについても、プログラミング教育に対応したバージョンアップを行っております。

また、次年度の必修化前にことしの夏季休業中に各小学校でI C Tサポーターを講師としてプログラミング教育の研修を実施し、その研修で学んだことを9月以降の授業で実施する体制をとることといたしております。それらの実践を参考としながら、次年度以降のプログラミング教育の実施について準備をしてまいりたいと思っております。

次に、生徒や校舎内におけるハードの面でのI C T環境整備の現状と今後の計画についてでございます。

初めに現状でございますけれども、児童・生徒が使用する機器については、タブレット型のパソコンを各校 40 台整備しておるところでございます。校舎内における環境につきましては、全ての端末が同時にインターネット接続するなどの操作をしても影響が出ないように整備をいたしております。

今後の計画についてでございますけれども、プログラミング教育の実施に向け、今年度新たに小学校 5 校においてタブレット型パソコンを各校 40 台追加整備することとしており、またその他の学校についても追加整備をしていきたい、このように考えております。

以上でございます。